



令和6年能登半島地震 救護活動報告

日赤災害医療コーディネーターチーム第1班

日本赤十字社沖縄県支部
沖縄赤十字病院

沖縄県日赤災害医療コーディネートチーム 派遣概要

活動先	活動期間	派遣者数	職種	所属	主な活動内容
日本赤十字社 石川県支部	1月13日 ～ 1月19日	3名	医師	沖縄赤十字病院	情報収集・共有 活動計画の作成 救護班の支援
			事務		
			事務	日本赤十字社 沖縄県支部	

日赤災害医療コーディネートチーム(CoT)の活動

救護活動を円滑に行えるよう、行政や関係機関と連携し、被災地のニーズを把握し、救護班の派遣計画作成等を行う。

被災地CoTは赤十字救護班だけでなく、他の医療チームを含めてコーディネートを図る。



被害が甚大なエリア

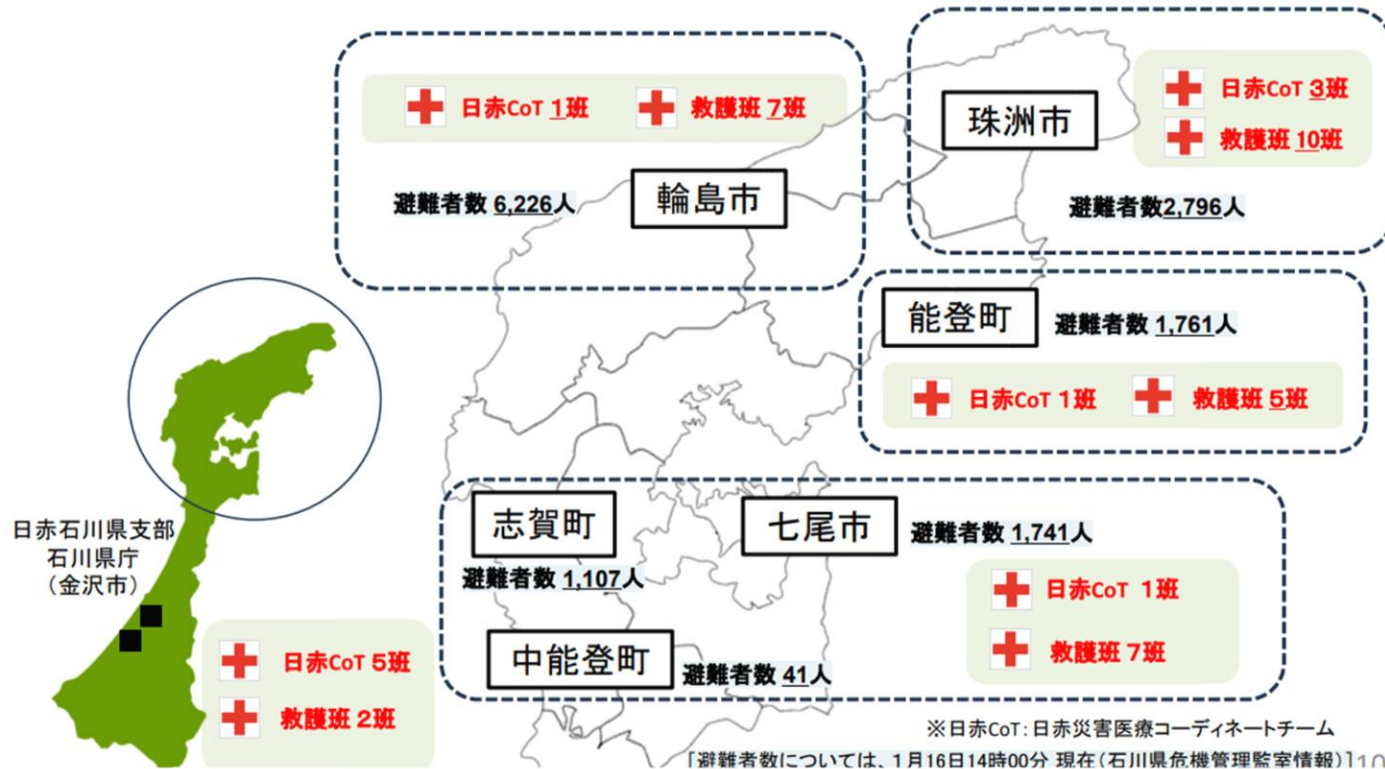
同じ縮尺の沖縄本島

被害が甚大な奥能登エリアは、金沢市から4～6時間かかる状況であり、現地で活動できる支援団体が限られる状況が続く。

車両や資機材(人・モノ)を多く保有し、自己完結型の活動を長期間継続できる日本赤十字社の特性を発揮し、各エリアにおける避難所支援の中心的役割を担うこととなった。

2 日本赤十字社の主な活動状況

(3) 救護班等の活動状況 [1月16日10時00分 現在活動中]



令和6年能登半島地震にかかる日本赤十字社の対応について(第15報、1月16日)より抜粋

日赤石川支部、県庁、七尾市、輪島市、能登町、珠洲市
6か所に日赤CoTを配置し、救護班の指揮統制を行った。



沖縄CoTは 日本赤十字社石川県支部災害対策本部で活動

- ・各エリアの情報収集・整理・共有
- ・救護班の管理
- ・救護班・CoTの派遣計画の立案
- ・宿泊拠点の手配などの支援
- ・本部業務の整理・システム化

〈支部災対本部構成人員〉

(日により変動)

- ・石川支部職員 6～8名
- ・ブロック応援要員 2名
- ・コーディネートチーム2班
 - 医師 2名
 - 看護師 2名
 - ロジ 4名
- ・本社職員 4名
- ・こころのケア班 4名
- ・物資搬送ボランティア数名

「支部CoTの一日の業務」

8:15 石川支部災対本部着

8:30 支部主要メンバーMTG

8:45 支部全体MTG

9:00～

到着救護班への情報提供(ブリーフィング)

救護班活動状況の更新

本社・県庁等関係機関への定期報告

14:30 各エリアCoTとzoomMTG

活動終了した救護班から聞き取り

18:00 県医療本部zoomMTG

20:00 この時間を目安に本部業務終了

必要に応じて県庁で情報収集

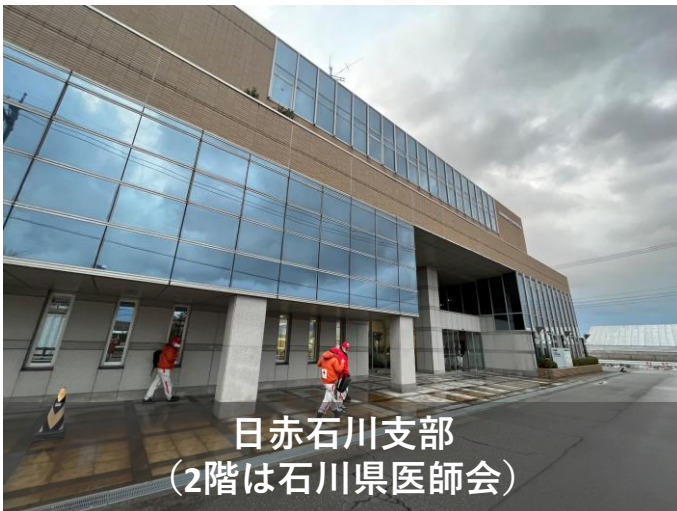
日本赤十字社石川県支部 災害対策本部



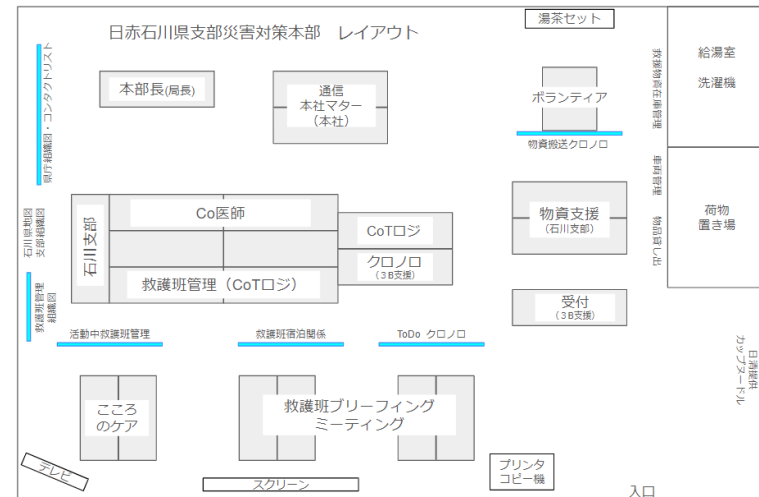
救護班派遣を調整する佐々木Co医師（沖縄）



日赤石川支部災対本部
(講習用会議室を使用)



日赤石川支部
(2階は石川県医師会)







県医療本部の定時zoomミーティング



県庁到着時



県庁の日赤CoTと情報交換



県医療本部レイアウト

七尾市～穴水町～能登町～珠洲市



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

沖縄県支部
沖縄赤十字病院



道路のひび割れ



う回路で支援車両の渋滞が発生



法面の崩落



雪が残る山間部

救護班の宿泊拠点（珠洲市・能登町）



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

沖縄県支部
沖縄赤十字病院



大部屋で就寝（ひとり1.5畳程度）



断水のため携帯トイレやラップポンを使用
（し尿廃棄物の処理が地域の課題に）



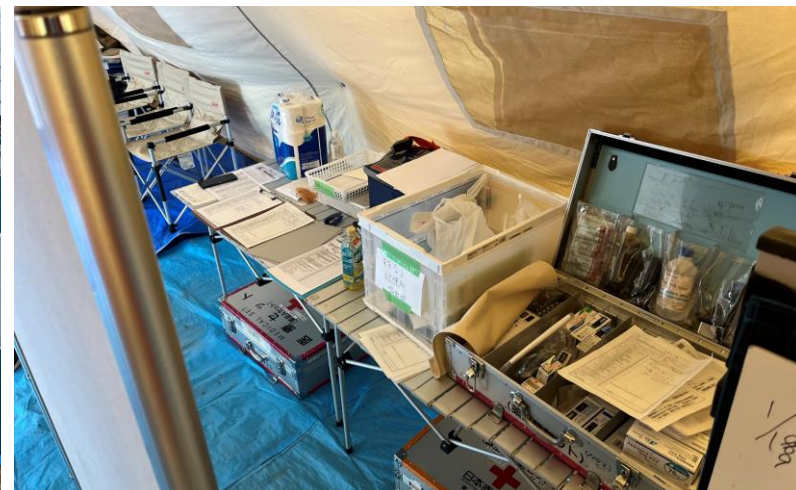
災害用シャワーWOTAの設置検討



持ちよりの非常食

断水で休業している宿泊施設を間借り。日赤第3ブロック(中部北陸)各支部から管理用員を派遣し、生活環境を維持。

珠洲市に設置した救護所



地域の診療所が閉鎖し珠洲市総合病院に受診者が殺到したため、行政からの要請を受け隣接の道の駅に救護所を設置。メディカルコンテナの設置についても協議をすすめる。

珠洲市、能登町の様子



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

沖縄県支部
沖縄赤十字病院

